

ダイヤ水系ハイセラフツツ

【標準施工仕様】

平滑仕上げ:PC・RC面の塗装、営業系サイディングボードの新設・塗り替えなど

工 程	材 料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間	
					工程内	工程間
1 下地調整	PC,RC	●躯体の不陸、段差、巣穴等は前もって補修して下さい。 ●ゴミ、油等の付着物は除去し、水分10%、pH10以下に管理して下さい。				
	サイディング	●劣化した既存塗膜は、電動工具、手工具を用いてケレン除去して下さい。 ●既存塗膜の活膜部については、チョーキング、塩類等の付着物を高圧洗浄やサンドペーパー掛け等の方法で除去・清掃して下さい。				
2 下塗り	ダイヤワイドシーラー (無希釈)	15kg	0.10~0.15kg/m ² 100~150m ² /缶	1	—	2時間以上
3 中塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ 中塗り 清水	16kg 0~1.6%	0.15~0.18kg/m ² 88~106m ² /缶	1	—	5時間以上
4 上塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ A液	15kg	0.13~0.18kg/m ²	1	—	—
	B液 清水	1kg 0~0.8%	88~123m ² /缶			

凹凸仕上げ:PC・RC面の新設塗装

工 程	材 料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間	
					工程内	工程間
1 下地調整	PC,RC	●躯体の不陸、段差、巣穴等は前もって補修して下さい。 ●ゴミ、油等の付着物は除去し、水分10%、pH10以下に管理して下さい。				
	ダイヤワイドシーラー (無希釈)	15kg	0.10~0.15kg/m ² 100~150m ² /缶	1	—	2時間以上
2 下塗り	ダイヤワイドシーラー (無希釈)	15kg	0.10~0.15kg/m ² 100~150m ² /缶	1	—	2時間以上
3 模様塗り	ダイヤエボンE(1液型) 清水	20kg 0~0.4%	1.3~1.5kg/m ² 13~16m ² /缶	1	—	16時間以上
4 中塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ 中塗り 清水	16kg 0~1.6%	0.15~0.18kg/m ² 88~106m ² /缶	1	—	5時間以上
5 上塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ A液	15kg	0.13~0.18kg/m ²	1	—	—
	B液 清水	1kg 0~0.8%	88~123m ² /缶			

既存塗膜の塗り替え:アクリルリシン、吹付けタイル面等

工 程	材 料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間	
					工程内	工程間
1 下地調整		●劣化した既存塗膜は、電動工具、手工具を用いてケレン除去して下さい。 ●既存塗膜の活膜部については、チョーキング、塩類等の付着物を高圧洗浄やサンドペーパー掛け等の方法で除去・清掃して下さい。				
	ダイヤアクリスファイラー	16kg 1.0~1.3% 0.5~0.8%	0.3~0.5kg/m ² 0.8~1.0kg/m ²	1	—	16時間以上
2 下塗り	清水	中毛ローラー 多孔質ローラー				
3 中塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ 中塗り 清水	16kg 0~1.6%	0.15~0.18kg/m ² 88~106m ² /缶	1	—	5時間以上
4 上塗り	ダイヤ水系ハイセラフツツ A液	15kg	0.13~0.18kg/m ²	1	—	—
	B液 清水	1kg 0~0.8%	88~123m ² /缶			

※アクリスファイラー他、アクリスエボの使用も可能です。

【包装単位】

- ダイヤワイドシーラー 15kg缶
- ダイヤアクリスファイラー 16kg缶
- ダイヤエボンE(1液型) 20kg缶
- ダイヤ水系ハイセラフツツ中塗り 16kg缶
- ダイヤ水系ハイセラフツツ 16kgセット

【用 途】

- 一般外壁の美装と保護
- 複層仕上塗材(硬質)の上塗り
- 超高層ビルのカーテンウォール
- 建築・土木の鋼構造物など

【可使時間】

季 節	気 温	可使時間	塗装間隔
夏	25~35℃	4時間以内	2時間以上~7日以内
春・秋	15~25℃	6時間以内	4時間以上~7日以内
冬	5~15℃	8時間以内	6時間以上~7日以内

■ 施工・管理上の注意

- 【塗膜面の調整 (新設)】
- ①素地に付着している塵、汚れ、油類、レタンス等を完全に除去して下さい。
 - ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下 (pH10以下) になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で3週間、冬期で3週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で3週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
 - ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 - ④PC/パネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1) 取組、水コン、破損箇所、不陸などは、セメントファイラー、セメンシャス#2000、セメンシャス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、修繕して平滑にして下さい。
 - 2) 表面が極めてレイタンス層がある場合は、レイタンスを除去し、ダイヤガンコンローラー又は、ダイヤシューエボをご使用下さい。
 - ⑤ALCパネルの場合はダイヤカチオンファイラーを塗布して下さい。
- 【塗膜面の調整 (改修)】
- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
 - ②使用材の材質の相性により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
 - ③各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の修繕や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行なって下さい。
 - ④剥離層が深い場合には、取り除いてから施工して下さい。
 - ⑤チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 - ②材料の保管は凍結防止による凍害を避けるため、気温5~35℃で、密封し、また直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、実質の有無を確認して下さい。
 - ③B液は湿気硬化性のため、使用後は必ず密栓し、水分が混入しないように保管して下さい。
 - ④B液は危険物ですので、火気や換気には十分注意して保管して下さい。
- 【施工】
- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生して下さい。
 - ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りません。成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ③材料は付着後、必ずと取れず、完全に養生して下さい。塗付面周辺の養生を常に行人、搬入物の周辺に開放しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと壁が剥りたりとなります。
 - ④乾燥時間は、温度、および、風等により差異を生じます。
 - ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要な能力以上のものをご使用下さい。
 - ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 - ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一箇所途中で塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
 - ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、塗面に残る場合があります。
 - ⑨本機施工に入る前に試塗りを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
 - ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上がらないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合は少なめに希釈して下さい。
 - ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工を避けて下さい。
 - ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
 - ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 - ⑭塗膜下の差によって、塗布量が変わる場合があります。
 - ⑮フッ素や無機系などの難接着塗膜処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の際は最寄りの営業所へご相談下さい。
 - ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
 - ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
 - ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くこすると色が取れる場合があります。
 - ⑲下地の吸込みムラにより色合いのムラが発生する場合があります。
 - ⑳シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共通は避けて下さい。
 - ㉑上塗材を施工する場合は、全塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
 - ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗浄にダイヤガンコンローラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
 - ㉓B液は本来のA液とむじみくいて、必ず電機の手袋等により混合して下さい。手で軽く攪拌しただけでは硬化不良となり、艶が発現しない場合がありますので注意して下さい。
 - ㉔小出し混合する場合は、混合比のずれが生じないよう、必ず秤秤・上面電子天秤等を用い、量産上の配合割合を厳守して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ㉕施工後、塗膜が乾燥するまでに、降雨などにより水分の影響を受け状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥後に降雨や結露、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
 - ㉖予想外の降雨が発生した場合は、シート養生などを行い塗膜面が濡れないよう対策を講じて下さい。

- ⑫施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨降りでない部位や鉛筆、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が現れないことがあります。
 - ⑬シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビ汁などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ⑭上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
 - ⑮塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などにより吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まれないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐傷性、低汚染機能が発揮されません。
 - ⑯A液とB液は指定の割合で調合し、電動攪拌機を用い十分に混合(2分以上)して下さい。
 - ⑰A液とB液の混合比率が不適切であったり、B液を調合していなかった場合は、低汚染機能が現れません。
 - ⑱フッ素トップに使用する場合も、上塗のA液、B液の缶を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量調合し、電動攪拌機を用い同時に混合し使用して下さい。
 - ⑲A液とB液の混合後は可使時間以内に使用して下さい。可使時間を超過して使用した場合、作業性や仕上り、汚染機能が現れない場合があります。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 - ②吸い込んだ場合は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
 - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 - ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
 - ⑤農薬材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ医師の診断を受けて下さい。
 - ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑧中身を使い切ってから廃棄して下さい。
 - ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
 - ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
 - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認ください。
 - ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート (SDS) をご確認ください。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

(23.11月現在) 23.11.200 SJ

DIA ダイヤ水系ハイセラフツツ

超耐候性

環境対応

超低汚染性

次世代型 水性フッ素 樹脂塗料

防藻性

高光沢

水系 超耐候・超低汚染型変性無機フッ素樹脂塗料

ダイヤ水系ハイセラフツ

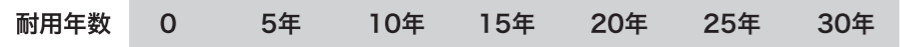
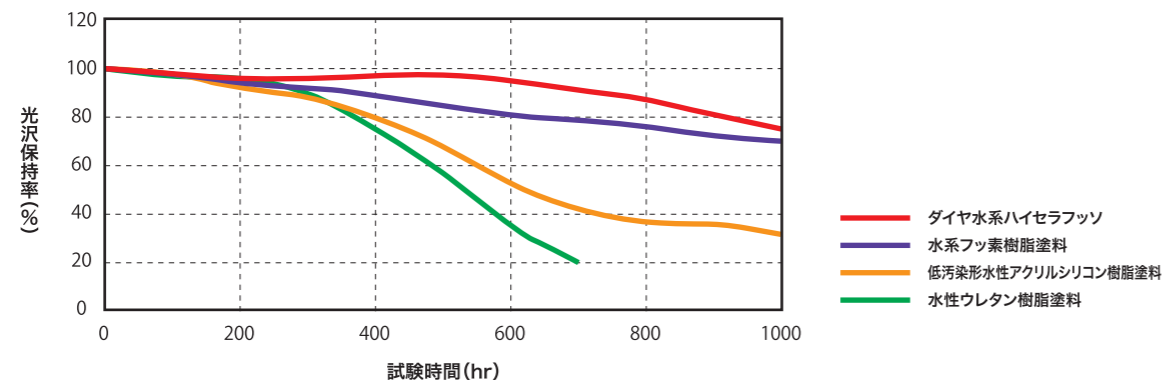
DIA

従来の水性フッ素樹脂塗料は、融着による塗膜形成が殆どであり、汚染性が劣っていました。ダイヤ水系ハイセラフツはフッ素樹脂にオルガノポリシロキサン系樹脂をハイブリッド化することにより高架橋塗膜を得ることが可能となり、汚染性を飛躍的に向上させることが出来ました。さらに、オルガノポリシロキサンの特長である耐候性を活かすことによって従来のフッ素樹脂塗料を超えた次世代型水性フッ素樹脂塗料となりました。

超耐候性

ダイヤ水系ハイセラフツは、紫外線や熱に安定である無機を結合材として使用しているため、従来のフッ素樹脂塗料より優れた耐候性を有します。

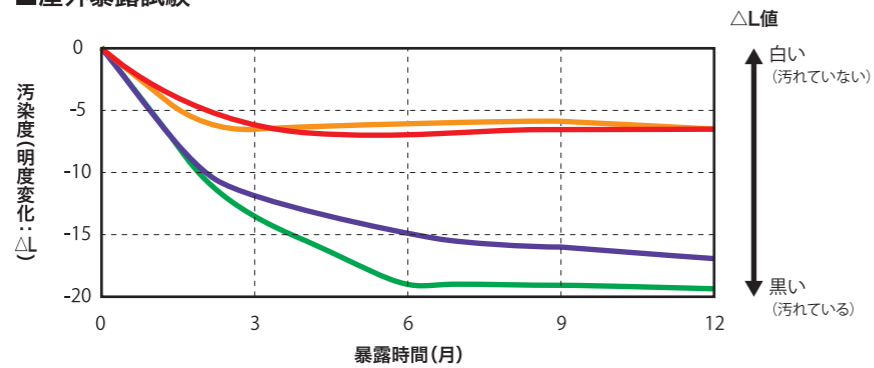
■メタルハライドランプ式 超促進耐候性試験機(スーパーUV)



超低汚染性

ダイヤ水系ハイセラフツは、紫外線や熱に安定である無機を結合材として使用しているため、従来のフッ素樹脂塗料より優れた超低汚染性を有します。

■屋外暴露試験



ダイヤ水系ハイセラフツ (赤線)、水系フッ素樹脂塗料 (青線)、低汚染形水性アクリルシリコン樹脂塗料 (オレンジ線)、水性ウレタン樹脂塗料 (緑線)



水性フッ素樹脂塗料 (左) ダイヤ水系ハイセラフツ (右)

高光沢

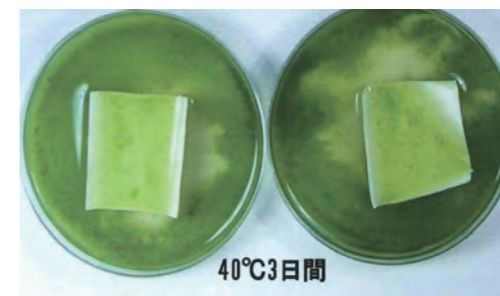
ダイヤ水系ハイセラフツは、溶剤系塗料と同等の高光沢を有するため、高い意匠性が得られます。

■相対比較

試験項目	品 種	ダイヤ水系ハイセラフツ	水性フッ素樹脂塗料	低汚染型水性アクリルシリコン樹脂塗料	水性ウレタン樹脂塗料
60度鏡面光沢度 (%)		88	78	83	80
温冷繰り返し性 (微弾性フィラー下地)		○	○	○	○
耐アルカリ性		○	○	○	○
耐屈曲性		○ (2mmφ合格)	○ (2mmφ合格)	○ (2mmφ合格)	○ (2mmφ合格)
リコート性		◎	△~×	◎	◎
促進耐候性(スーパーUV) (1000時間後の光沢保持率)		75	70	32	18
耐汚染性 (1年暴露後のΔL値)		-6.5	-16.5	-6.6	-19.4
耐用年数		18~22年	13~15年	11~13年	8~10年
ライフサイクルコスト		◎	○~△	○~△	○~△

防藻性

ダイヤ水系ハイセラフツに防藻性を付与させることにより、初期の仕上りを長期間保持します。



汎用水性塗料(塗膜表面に藻が発生)



ダイヤ水系ハイセラフツ(異常無し)

環境対応

ダイヤ水系ハイセラフツは、水性塗料です。溶剤系塗料に比べ臭気が少ないため作業環境改善に貢献します。